

「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り①

カリキュラム・マネージャー

第 1 回連携協議会報告

令和 6 年 6 月 10 日（月）、視聴覚室にて全委員の出席のもと第 1 回連携協議会が開催されました。協議会は B 地区の事業の方針と効果的な取組について検討することを目的に、年 3 回実施する予定です。

1. 開会挨拶（中高養校長）

出席に感謝申し上げます。これまで特別支援に関する事業は現場には見えづらいところがあったが、気が付けば大きく変わってきたと思えることがある。本事業の推進に当たっては、委員の方々と 10 年後の姿を描いたり、行動したりしながら方向を一つにして進めていきたい。忌憚のない意見を願う。



2. 説明

(ア) 事業趣旨説明（特別支援教育課）

(イ) B 地区の取組方針（中高養校長）

(ウ) 実施要項、アンケート、視察報告（カリキュラム・マネージャー）

3. 質疑・意見

Q 1 生徒の幼小中の時期の交流の経験をどのようにとらえるか？

A 中札内村の学校との交流に関わる視点と思う。この点を考慮して教育長に参加していただいている。

Q 2 対象生徒の決定に、本人や保護者の関与を大切にすべきと考えるか？

A 事業を進めるに当たって十分配慮し、具体的に検討して行きたい。

Q 3 異なる教育課程で実施する場合、ねらいと評価はどのようになるか？

A 検討課題である。今後、単位取得や卒業認定などの検討も必要になる。

A 他校や他県の取組なども参考にしながら、両校に合うシステムを構築していくことで課題をクリアしていくことになるのではないかと。（特別支援教育課）

A 従来の学校間交流については整理されていると思う。個人で実施する場合、今すぐということではないが、自立活動、学校設定科目、選択科目など

※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。

の切り口が考えられる。その場合、どちらも道立学校であることから、高校教育課、十勝教育局などと共に課題を解決していくことになる。（特別支援教育課）

Q4 更別の生徒が中札内の授業を受ける場合、対象生徒に条件はあるか。既存の学習になるか、それとも特設された学習になるか？

A 全ての生徒を対象に実施する。個人の学びのニーズに基づいてどのような学習に参加するか考えていく。例えば本校の作業学習に参加するとして、イメージしやすいのはニーズに基づくねらいをもった自立活動として計画することなどが考えられる。

Q5 中札内の生徒が更別の授業を受ける場合の想定は？

A まず、更別の学習活動を知った上で、生徒の希望からアプローチすることになると思うが、その前段階として、更別の教育課程を教師が理解し、ある程度可能な受講の形をイメージして生徒に情報提供するということが必要になると思う。

4. 閉会挨拶(更農校長)

校種の異なる両校の連携には様々な壁があるが、教職員の協力、理解、話し合いを通して互いの良さを取り入れ課題を解決することで、一人一人の実態に即した「交流及び共同学習」が実現し、自立に向けた教育が深まると思う。この事業が基になってインクルーシブ教育が広まり、スタンダードになるように努めたい。また、小中学生及びその保護者の進路選択に役立つようになることを願う。

今後の予定

1. アンケート意識調査

7 月中の実施に向け、連携協議会資料にある質問項目により Google Form によるアンケートを準備中です。なお、回答によっていかなる個人情報も収集しません。すべての方の回答をお願いいたします。

2. 交流及び共同学習

両校の関係の先生方と連絡を密にしながら、時期や手順等を検討している段階です。先生方には、一人一人の生徒のニーズや興味関心などを踏まえた共同学習のイメージをもっていただきたいと思います。

3. 連携校の教育資源を活かした教育活動

夏休み明けからのスタートを想定し、1 学期中には両校の要望を把握したいと考えています。